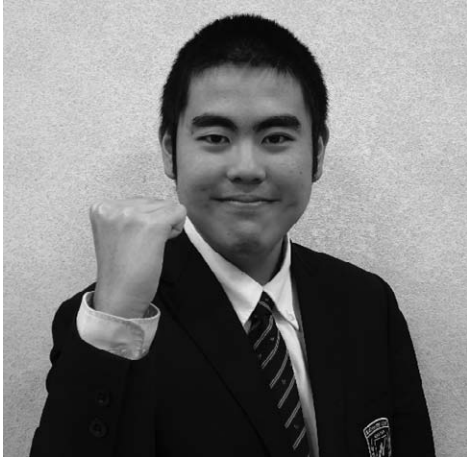


(3) 八戸工業大学第二高等学校

青森、これから。



政策を考えた八戸工業大学第二高等学校の皆さんから、メッセージをいただきました！



たなか そら
田中 蒼空 (1 学年)

自分の生活に関わっている事がどのように決められているのかを知ることができました。
身近な所の政治から知っていこうと思います。

素敵な体験をすることができて嬉しいです。
青森の産業がより活発になることを願っています！



おくやま ななみ
奥山 七夏美 (1 学年)

高校生模擬議会に参加することができて嬉しいです。
これから青森県がよりよくなるように、自分が
できることを精一杯していきたいと思います。



こもり みく
小森 美空 (1 学年)

今回の発表で青森の暮らしが豊かになり、
住みやすい街になると嬉しいです。



きたむら ゆきと
北村 雪都 (1 学年)



たちほな たける
立花 豪琉 (1 学年)

県産のブランド食品をもっと食べたいです。

青森を見つめる良い機会になりました。
青森がもっと有名になりますように。



えびな ひなの
蛸名 姫向乃 (1 学年)



かわむら あいな
河村 愛奈 (1 学年)

私は普段人前で発表する機会がなく、とても貴重な時間で、いい切っ掛けになりました。
今後発表する機会があれば生かしていきたいです。

青森県の未来についてもっと考えていきたいです。



そうぜん めい
宗前 愛苺 (1 学年)



おおしま りお
大嶋 莉央 (1 学年)

初めは不安だったけれど、みんなと協力して作成することができたし、いい体験ができたと思いました。

実現するのはとても時間が掛かると思いますが、今まで以上に青森全体がにぎやかになってほしいです。

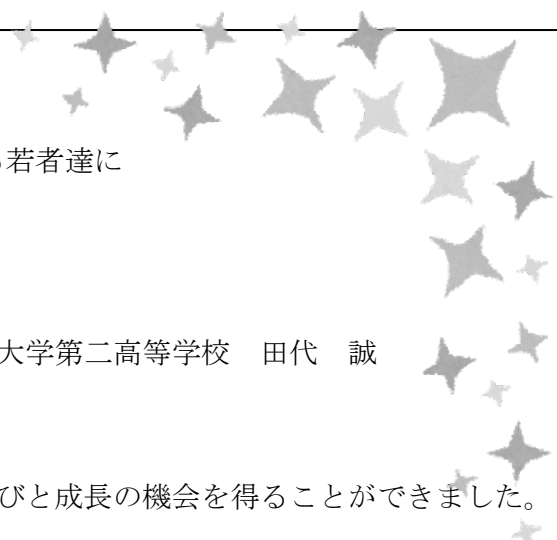


たかや りん
高谷 凜 (1 学年)

青森の知られていないたくさんの魅力が、もっと広まってほしいです！！



はまざき さと
濱崎 咲良 (1 学年)



数年後に選挙権を得る若者達に

八戸工業大学第二高等学校 田代 誠

高校生模擬議会に参加することで、生徒達は様々な学びと成長の機会を得ることができました。本当にありがとうございます。

青森県が抱える様々な課題に対して、何故そうなっているのか・どうすれば解決できるのかについて、生徒達は思うことはあっても同世代の仲間達と話題にすることはまず無かったと思います。その意味では、11月に実施したグループワークは彼らにとって新鮮な体験で楽しかったようです。

大人達から「ああすれば良い」「こうすれば良い」と言われて動く行動様式から、自分で考えて動くことを(机上プランですが)求められたのですから。それに、正解が無いのも魅力だったようです。

グループワークから本番当日までは、十分な活動時間を確保できない中で、昼休みや放課後を活用して打合せを行い、「見て分かりやすく、楽しめるように」をキーワードに発表資料とは別にイラストやボードを用意しました。また、提案した政策の中には荒唐無稽なものもあったかもしれませんが、「いま青森県に住んでいる人たちの便利さと豊かさ」に加えて「今まで青森県に目を向けてこなかった人たちに興味を持ってもらう」ことが政策として必要だと彼らが判断した結果と言えます。

「準備は大変だったけど楽しかった。」帰りのバスの中で生徒達の会話から漏れ聞こえた言葉です。話しを聞くことが楽しい、そして参加することが楽しい政治の場が次世代の若者達によって更に形作られて行くのだと期待します。

青森、これから。

私達は青森県のこれからの未来を良くするために4つの政策提案を立てました。

まず初めに、青森県の魅力についてまとめてみました。

1

2024/2/9

八戸工業大学第二高等学校



青森県は農業漁業がとても盛んです。農業・漁業産出額は7位、8位と高い順位です。

みつめる



農業・漁業
が盛ん

- ・ 農業算出額は全国7位
- ・ 漁業算出額は全国8位

- ★ 農業は食糧自給率が高く、いろいろな食材がバランス良く生産
- ★ リンゴは海外輸出が増加
- ★ 漁業は多種多様な魚種に恵まれた漁場
(日本海・津軽海峡・太平洋)



2

2024/2/9

農業では食糧自給率が高く、様々な食材がバランス良く生産されています。



りんごは海外輸出が増加、漁業は多種多様な魚種に恵まれており、魚も新鮮なものを食べられるという魅力もあります。(2)

みつめる

多くの観光客 を呼べる祭り

・2023年のねぶた祭りの観光消費額は約295億円。
仙台の七夕祭り207億円、盛岡のさんさ踊り94億円を
押さえて東北トップ

- ★ 弘前ねぶた、八戸三社大祭、五所川原立佞武多を加えると
観光客数・観光消費額共に東北トップ
- ★ 人を惹きつける強力なコンテンツ



そして青森県はねぶたが世界的に有名です。

3



私達の地元、八戸市の八戸三社大祭は、2016年にユネスコ無形文化遺産に登録されており、世界に誇れる祭りとなりました。(3)

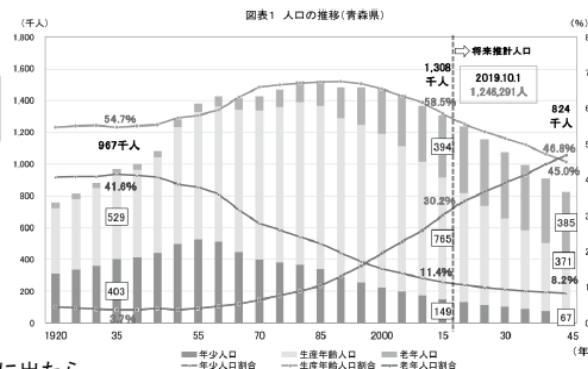
みつめる

人口減少は 確実に進行

- ・若者は進学等で県外へ
- ・20～24歳の女性の転出割合が大きい

★ 若い女性が外に出たら
子どもの数は増えない

2024/2/9



資料) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年3月推計)」、青森県「人口移動統計調査」

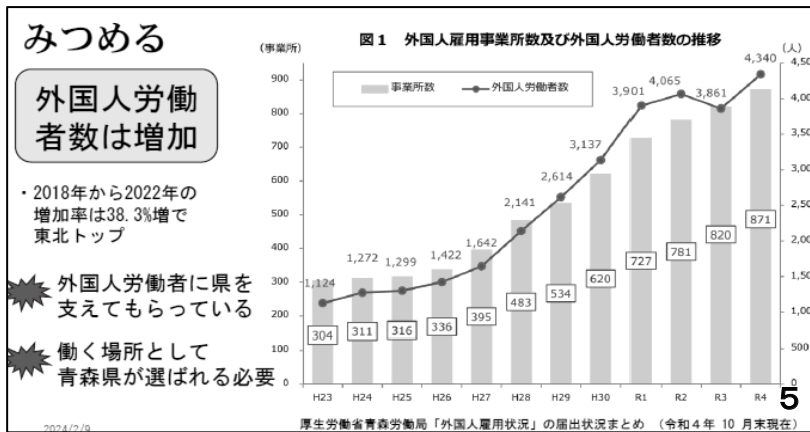
4

青森県の人口は、1983年にピークに減少傾向が続いています。

その理由として、若者が進学等の理由で県外に行ってしまう、20歳から24歳の女性の転出割合が大きいことが挙げられます。



そして若い女性が県外に出てしまうと子どもの数が増えないということが課題として挙げられます。(4)



それに比べ外国人労働者数は年々増えており、2018年から2022年の増加率は38.3%で、東北トップとなっています。



このことから青森県は外国人労働者に支えてもらっていることが分かります。

人口を減少させないためには、働く場所として青森県が選ばれる必要があります。(5)

そして、

強みである農業・漁業を元気に

人口減少に伴って発生する諸問題の改善

青森が楽しい、青森で住みたいと思わせる

5年以内にアクションを起こし、
老年人口割合が生産年齢人口を上回る20年後には成果が見える状況に

6

そして青森の強みである農業漁業を今まで以上に盛んにし、人口減少に伴って発生する諸問題を改善し、青森に住みたいと思わせられるアクションを5年以内に起こし、老年人口割合が生産年齢人口を上回る20年後には成果がみえる状況にしたいと私達は考えています。(6)



政策提案1 農業・漁業体験と還元
～メイン産業の維持・振興～

青森の魅力は、
豊かな自然とその恵み

★ 全県実施のオーナー制度

- ・地域の特性に合わせた農産物を一覧に
- ・種まき、収穫、管理等どれか一つの作業を体験することでオーナー登録
- ・県内での宿泊は割引適用
- ・農地、作物、自然、動植物の四季を感じることができるようにカメラ映像や気温を配信
- ・外国人観光客の選択肢の一つに



9月上旬
実施予定

復活! 嶽きみ「収穫体験」!

先着300回
お申し込みは
お早め!

ひと口
10,000円

※詳しくはお問い合わせください。

自分で採ると
もっと美味しい!



ANEKKO(あねっこ)ホームページから

7

まずは農業、漁業のオーナー制度について提案します。

これは種まき、収穫、管理等、どれか1つの作業を体験することでオーナー登録することができます。実際に青森県で行われているオーナーの嶽きみをスタッフが収穫し、旬の時期にオーナーに発送する取組があります。このようなオーナー制度を広めていけばいいと思います。



そのために国内や国外の観光客が気軽に参加できるように、県内での宿泊は割引が適用されるようにします。

そしてオーナー登録した後も農地の四季を感じることができるように、カメラ映像や気温を配信してSNSでチェックできるようにします。(7)

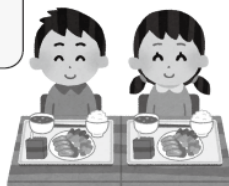
政策提案1 農業・漁業体験と還元～メイン産業の維持・振興～

★ 子ども達が青森の恵みを感じるための体験授業

- ・各地域の休耕田を教育用に確保
- ・県内各地での小中学校で、近隣の農家と連携して農作業体験
- ・給食の食材として利用
- ・自分が関わった食材を食べることで食育の効果増大



参加した子ども達は
無料で、
青森県のオーナーに



8

それに加え、子ども達にも県のメイン産業と触れあう機会が必要だと考えます。

そのために各地域にある休耕地を学校側で確保し、小中学校で農作業体験を実施します。

近隣の農家と連携し、収穫された食材を給食で提供することで、食育の効果が増大すると考えました。



また、農作業体験は地域の人との交流にもつながります。

オーナー制度と似たかたちですが、子ども達は無料でオーナーになれるので、身近であり気軽に産業と触れあうことができます。(8)

政策提案1 農業・漁業体験と還元～メイン産業の維持・振興～

期待される効果

【オーナー制度】

- ・生産者側は、より消費者を意識して作業にあたることができる
- ・消費者側は、産地や生産者の「見える化」が可能となる
- ・商品を通して、「青森」を見てもらうことができる
- ・県外、国外からの観光客の方々に対しても、「祭り+α」の選択肢となり得る
- ・これまで青森県産品を購入することが無かった方をお得意様にできる可能性が増える

【農業・漁業体験授業】

- ・授業に参加して「オーナー」（お金はとらない）となることで、自分と県とのつながりを感じる
- ・成長する作物と、多くの手間がかけられていることを映像として確認できるため自然の大切さと食べ物のありがたさを強く感じることができる
- ・子どもがオーナーとなることで、保護者も青森産の食材を購入する機会が増える

9



期待される効果として、観光客の方々にはオーナー制度が、祭りプラスαの選択肢となります。

また、青森県産品を購入することがなかった方を、オーナー制度を通してお得意様にできる可能性が増えると考えます。



農業、漁業体験授業では、参加しオーナーとなることで、自分と県とのつながりを感じることができ、産業がより身近なものになると思います。

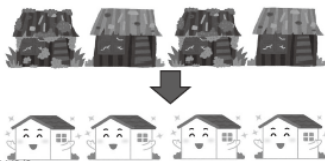
さらに、子どもがオーナーとなることで、保護者も青森県の食材を購入する機会が増え、家族で県産品を食べることも増えていくと思います。(9)

政策提案2 五感で感じるあおもり
～空き家を活用した施設整備～

空き家数は増加傾向 マイナスをプラスに

★ 管理できない空き家を引き取り
宿泊施設・テーマハウスとして整備・再活用

- ・全てをリフォームするのではなく、必要に応じて建物は解体
- ・立地を踏まえ、建物の移動を組み合わせる



10

政策提案の2つ目は、五感で感じるあおもり～空き家を活用した施設整備～です。

現在の青森県には使用されず管理されていない空き家がたくさんあります。

この提案はそんな空き家を引き取り、建物の状況に併せて整備をし、宿泊施設、青森のテーマハウスとして再利用するという提案です。



グラフを見ると分かるように、年々空き家の数は増え続けています。空き家が増え続けているというマイナス面をプラス面に変えることがこの提案の狙いです。(10)

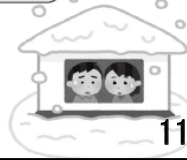
政策提案2 五感で感じるあおもり～空き家を活用した施設整備～

【テーマハウスのカテゴリー例】

- ・祭りの家、りんごの家、にんにくの家、ほたての家、なまこの家、だけきみの家
- ・地吹雪の家、温泉の家……
- ・津軽塗りの家、こぎん刺しの家、南部菱刺しの家
- ・大雪の家



あちこち動き回らなくても
青森、満喫



テーマハウスとは名前のとおり、青森の有名なものや魅力をテーマとした宿泊施設です。

ここで少し、私達が思い付いたテーマハウスを紹介しましょう。

1つ目はりんごのテーマハウスです。約50種類ある青森のりんごを食べ比べできたり、様々なりんご料理を食べたりすることができます。

2つ目はねぶたのテーマハウスです。ねぶたのテーマハウスでは、かけ声や太鼓、手振り鉦を実際に体験できたり、いろいろなねぶたの山車を鑑賞したりすることができます。

3つ目は地吹雪のテーマハウスです。青森は冬にたくさん雪が降るので、雪の降らない地域の方々や雪を体験してみたい子ども達が実際に雪や吹雪を体験することができます。家の中まで吹雪なのでとても寒いです。(11)



政策提案2 五感で感じるあおもり～空き家を活用した施設整備～

期待される効果

- ・イベントだけでなく、街の空気・生活のにおいを感じてもらえる
- ・県外観光客だけでなく、県内の方々も利用して「知らなかった青森県」を体験できる
- ・例えば、りんごのテーマハウスでは50種ある青森りんごの食べ比べや、種類にあった食べ方をじっくり体験
- ・ねぶた祭りのテーマハウスでは「ねぶた囃子」や掛け声、太鼓や手振り鉦をじっくり体験
- ・観光シーズンの宿泊施設不足に対応
- ・空き家が多い地区の雰囲気良くすることができる
- ・長く青森県に滞在したいと考える外国人の方々に住居提供が可能
- ・街並みがきれいになり、生活する場所として選択する人が増える



このようにテーマハウスでは、五感で青森を感じることができます。また、あちこちを回らずに青森を満喫することもテーマハウスの魅力です。

2024/2/9



テーマハウスを作ることによって期待される効果として、県外の観光客だけではなく、県内の方々も利用して、知らなかった青森を体験できること、観光シーズンの宿泊施設不足に対応できること、長く青森県に滞在したいと考える外国人の方々に住居の提供が可能なことなどが挙げられます。

テーマハウスを作れば青森県の活性化は間違い無いです。(12)

政策提案3 移動式テーマパークを活用
～若者が楽しめる空間づくり～



みなさんは知っていますか？青森には面白く気楽に楽しめる場所が少ないことを。

変化に対応できる「楽しいこと」

★ 移動式テーマパークの設立

- ・青森県は都市が分散している
面白い施設があっても気楽に楽しむことができない(距離・時間)
- ・大規模テーマパークがある場所に作っても、恩恵はその周辺だけ
大型連休だけ賑わっても、年間を通じた維持管理費は賄えない
- ・固定化した施設で倒産して廃墟になると多くの県民が失望



スペインの移動式遊園地



そこで私たちは、全県民が年齢を問わずに楽しめる施設を提案します。

政策提案3 移動式テーマパークを活用～若者が楽しめる空間づくり～

【移動式テーマパーク イベントトレーラーを最大10台準備】

トレーラーの内訳

- ・家族で楽しめる遊具(遊園地の要素を取り入れる)
- ・中高生でも楽しめるアトラクション
- ・青森の特産品販売(実施地域にはない物を)
- ・県内中高生から募集したアイデア実現



実施場所候補

- ・大型ショッピングセンター駐車場
- ・市街地中心街広場(あれば)
- ・クルーズ船寄港地

楽しいことが
身近に！

その他

- ・施設ではリンゴジュースが格安
- ・10台のトレーラーは5台ずつ、
「東青・中南・西北」「下北・上北・三八」地区で活動
- ・県外でも活動を展開し、デリバリーAOMORIを実践
- ・デザインはリンゴをモチーフにしたものなど、
「青森」をイメージしたものとする



14

2024/2/9



次に移動式テーマパークは、こんな楽しみ方があるのです。



例えば、遊園地の要素を取り入れ、特産品販売、中高生でも楽しめるアトラクション、さらに施設のデザインはりんごを題材にしたもの、のどが渴いたときには格安で販売されている様々な種類のりんごジュースが飲めること、そして他県の人達には大型ショッピングセンターで買い物ができ、より充実した休みを送れることなどです。(14)






移動式テーマパークで期待される効果として、中高生の希望するアイデアを取り入れた遊び場が増え、遠くまで行かなくても特産物を買うことができ、青森の人も他県の人も楽しむことができます。

政策提案3 移動式テーマパークを活用～若者が楽しめる空間づくり～

期待される効果

- ・ イベントに中高生の希望するアイデアを取り入れ、「遊ぶ場」を提供
- ・ 遠方まで出向かなくても、各地域の特産品を購入することができる
- ・ 各地域、アクセスの良い場所で実施することで学生が自転車で参加することができる
- ・ 内容がマンネリにならないように、トレーラーごとに内容入れ替えができる
- ・ クルーズ船の乗客が、港から遠く移動しなくても「青森体験アトラクション」に参加できリピーターが増える
- ・ 青森県外での活動により、多くの人たちに青森を体験してもらうことができる
例) 特別企画で「青森の祭り」など

15

最後に、テーマパークを作ることによって観光客が増え、青森が今まで以上に盛り上がり、活性化につながると考えました。(15)

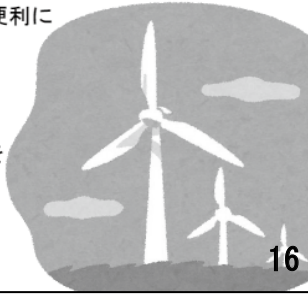


政策提案4 住みやすい青森県
～エネルギーの地産地消と県民・外国人にやさしい県に～

資源活用(エネルギー)と資源蓄積(人材)の道筋を

★ 再生可能エネルギーの地産地消で生活を便利に

- ・青森県は風力発電の発電量が全国1位
しかし、現時点ではそのエネルギーを
県が自由に利用することはできない
- ・将来的に、県が利用することができる電力を
確保する道筋を立て、県民の利便性向上に
役立てる



16

2024.12.19

次に、県で発電されている電気の使用とジャンボタクシーの運行と外国人移住のサポートを提案します。(16)



日本では現在、地方の過疎化が進んでいます。

政策提案4 住みやすい青森県～エネルギーの地産地消と県民・外国人にやさしい県に～

★ 過疎地で住居・教育・医療・福祉・買い物施設を近距離にまとめる

【人口減少はまったなし】

- ・ヒト、モノが拡散した状態で人口減少が進めば
インフラをはじめ行政サービスの維持が困難になるのは明らか
- ・住民の意向が最優先なのは当然
- ・QOLの低下が見込まれる場合は転居を推奨
- ・過疎自治体では教育・医療・福祉・買い物施設を循環する
ジャンボタクシーを運行



★ 外国人の方々への生活サポートを充実させる

【青森を支えてくれる人財】

- ・日本語を始めとして、教育・医療・福祉に
対応できるスタッフの充実
- ・本人だけでなく、知り合いも「青森県ではたらく」ことを
選択してもらえるように
- ・多言語での看板・案内板の設置

案内



17

そこで、ジャンボタクシーを運行したりして、暮らしの困難なお年寄りも住みやすくします。



そして、青森県に住んでもらえるように、多言語の看板などを増やす活動をします。(17)

期待される効果

【エネルギー地産地消】

- ・電熱線設置で雪かきから解放される
- ・蓄電器を備えたEV充電施設を設置すれば、余剰電力があれば県内にため込み、災害時のエネルギー源とすることができる

【過疎地での施設集約】

- ・電気、ガス、水道などのインフラの維持管理負担が軽減する
- ・地域の小学校や中学校への通学時間が短縮される

- ・緊急時の通院が迅速になる
- ・高齢住民の移動に関わる負担が軽減される

【外国人のサポート充実】

- ・他国と比較して収入が多少低くても日本の青森県で働くことが安心だと感じてもらえる
- ・青森県で働くことを選ぶ外国人が増える
- ・外国人と接する機会が増えて、県民の視野が広がる



18

次はこの活動で期待される効果です。



ジャンボタクシーを運行することで、お年寄りなどが通院が楽になります。

青森県で多くの人が働くことにより、納税額が増え、街が豊かになります。(18)

青森、これから、

19

農業・漁業体験と還元でメイン産業の維持・振興

空き家を活用した施設整備で五感で感じるあおもりに

移動式テーマパークで若者が楽しめる空間づくり

エネルギーの地産地消と生活サポートを充実させて県民も外国人も住みやすい県に

20年。



● たにかわ 谷川 まさと 政人 議員（自由民主党）

（谷川議員）



本県の持つ強みである農業や漁業、そして祭りなどの観光資源や自然環境を活かして、青森県が抱える人口減少などの課題を解決し、より住みやすく魅力的な都市へとしていくための素晴らしいご提案であったと思っております。

その中でオーナー制度の全県実施についてお伺いしたいと思いますが、嶽きみやりんご生産など、民間企業等で実施しているオーナー制度を全県的に普及させるためには、どのような取組が必要だとお考えかお伺いします。

（答弁）



他県ではオーナー制度についての詳しい説明や、そこから検索、申込みが可能なホームページを制作しています。高齢者にも普及されている身近なスマートフォンなどから検索し申し込みができます。

また、県で行っているホームページなので閲覧数もあり、多くの人々の目にも留まりやすく、興味を惹くのではないかと考えます。

青森高校様の発表にもあったとおり、青森県の公式アカウントに対する中国人の総フォロワー数は、青森県の全人口より多い130万人になっているそうです。そのことから、外国語の対応を検討してみるのもいいのではないのでしょうか。

以上のことから、青森県のホームページでも同じようなものを制作することで、オーナー制度を普及させることができると考えます。

（谷川議員）

全県に普及させるための取組について、県のホームページやSNSなどを通じて広くオーナー制度を募っていくというお考えをいただきました。

非常にいい取組だと思います。既に他県ではそうした取組を進めている状況でありまして、青森県も見習うべき点が多数有るのかなと感じているところでもあります。

ご提案のあったオーナー制度は、都会に住む人達が、市販で購入するよりも新鮮で高品質なものがお得に手に入ることに加え、農作物の成長過程に適宜携わり、直接収穫を体験することもできるなど、生産者の苦勞や喜びなどを少しでも享受しながら、食して生きることの重要性を学ぶことができるよい取組であると思っております。

民間企業等が実施しているこうした取組をしっかりと後押ししていくためにも、皆さんの今日のご提案を参考にしながら、私も県当局に働きかけをしていきたいと考えます。

●^{くどう}工藤 ^{ゆうへい}悠平 議員（自由民主党）

（工藤議員）



この空き家対策ですが、全国的な課題として、市町村も含めた様々な自治体がその地域に特化した政策を行っているところです。

例えば、八戸市では空き家ポータルサイトというものがあまして、空き家の持ち主さんと活用したい人のマッチングであったりとか、情報の提供等をするサイトというものを行っているのですけれども、こういった様々な自治体の施策というもの、成果が出ているところもありますし、なかなか成果が見られないというところもあります。これはアイデアに左右されるところが大きいのかなと思っております。

そういった中で、今回ご提案いただきましたテーマハウスとして活用していくということ、非常に面白い試みであると感じています。個人的には「なまこの家」というものに行ってみたいと思っておりますが、特にお勧めのテーマハウスがあれば、内容をご紹介いただきたいと思っております。

（答弁）



特にお勧めのテーマハウスは、なんと言っても「りんごハウス」のりんごの食べ比べです。

普通の家でりんごをプラスしていて、どこを見てもりんご、まさに青森の家です。またりんごの料理にはたくさんの種類があり、世界の様々な料理を並べて食べ比べをすることで、それぞれのりんごを活かし、りんごの良さが伝わる切っ掛けになると考えました。

（工藤議員）

ご紹介いただきました行きたくなるような家というのを、アイデアで出していただいたと実感しております。こういったアイデアは独自性といいますか、より振り切ったものが必要であるな、そのほうが実効性があるなと強く感じたところです。

10年後、20年後、さらに30年後と、まさに皆さんが支えていかれる世代であろうかと思っております。我々も未来に向けて頑張っていきたいと思っておりますので、今後とも、青森のこれからを共に作っていききたいと思っております。ありがとうございます。

(田端議員)



楽しくて魅力的な提案がされたと思っています。青森県の強みである農業漁業や観光資源を活かして、人口減少や外国人労働者の増加などの実態をしっかり踏まえた上での魅力的な提案だったなど、楽しく拝見させていただきました。

青森県にとって人口減少に伴って生じる諸課題は、待ったなしの状況です。過疎地であっても住みやすくするために、教育、医療、福祉、買い物施設を巡回するジャンボタクシーの提案がありました。

自家用車が使えない人や高齢者だけでなく、学校の統廃合が進んで近くに学校がない学生にとっても、公共交通はとても重要です。

そこで、県内でも地域を巡回するバスを運行している市町村もありますが、バスの運行などで工夫したほうがよい点などがありましたらお伺いします。

(答弁)



過疎地域でジャンボタクシーが運行されていることに着目しました。それは人を乗せることを主としています。

私が考えたのは、ジャンボタクシーで人を乗せながらアプリで依頼された荷物を集め、人と物を運ぶタクシーです。

タクシーとして人の動きを活発化させながら、物流を良くすることができると私は思いました。

(田端議員)

アプリとかこれから様々な道具や技術が発展する中で、活用できるものができていくと思います。それらを活用しながら、公共交通というのは効率性や生産性だけではない、そこに住む人を大事にするという視点も本当に大事じゃないかなと考えています。

皆さんと共にどのようにしたらいいのか、悩ましい問題を一緒に考えていきたいところです。皆さんからの提案を受けて、議会の中でも皆さんの声を活かすような活動をしていきたいと思いません。ありがとうございました。

（質問）



令和5年9月12日の「自然環境と再生可能エネルギーとの共生構想」では、「再生可能エネルギーでのエネルギー完全地産地消」を本県の中で目指していくとのことですが、いつまでにどれくらいの電力を青森県が利用できるようにしていくか計画案を教えてくださいませんか。また、その電力の使用目的があればあわせて教えてくださいませんか。

2つ目です。青森を代表する農作物であるりんごは、国際競争力も高く、年々海外への輸出量が増加しています。この地位は、150年間に及ぶ青森県の先人達の努力の結晶とも言えます。ただし、数十年先を考えた場合、温暖化の進行により青森がりんご栽培に適さない土地になってしまう可能性があると考えます。将来的に、暑くなっても美味しいりんごを目指すのか、他の農作物に切り替えていくのか、現時点での計画等がありましたら教えてくださいませんか。

●エネルギー総合対策局 エネルギー開発振興課

（エネルギー開発振興課長）



地球温暖化が進む中、その原因の一つであるCO₂を排出しない再生可能エネルギー発電の普及拡大は、今を生きる私たちにとって、また皆さんを含むこれからの世代にとって、非常に大切であることは間違いありません。

一方で、過去から守り続け、必ず次の世代につなげていかなければならない大切な自然というものも、この青森県には数多くあります。

美しく雄大な青森県の自然を次の世代にしっかり残しながら、地球環境にも優しい再生可能エネルギーも推進していくため、県では「自然環境と再生可能エネルギーとの共生構想」を策定しました。

共生構想では、売電を目的とした発電も含め、再生可能エネルギーによる発電で県内の電力需要相当量の全てを担うことが可能な規模の導入を目指し、令和6年度中に「再生可能エネルギーと地域・自然との共生に係る条例」を制定するなど、再生可能エネルギーと自然環境との共生にむけた様々なルールづくりを進めることにしています。

質問のありました再エネ電力の利用計画案ということですが、現在公募が行われている洋上風力発電を含め、今後導入が見込まれる県内の再生可能エネルギーの発電量を一定の前提で試算しますと、県内の電力需要に対する割合は約91.1%となります。これに、省エネ等の推進を併せることで、将来的には、県内の電力需要相当量の全てを再生可能エネルギーによる発電で賄うことも可能であると考えています。

このことも踏まえ、県としてはいつまでに再エネを導入するかということよりも、どうやって再エネと自然環境の共生を図るかを重要課題として取り組んでいるところです。

次に再エネ電力の使用目的ですが、電力のネットワークには再エネ以外の電源も接続されており、実際の運用上は、電気を大量に貯蔵することができないため、電気を使う量に併せて、再エネ電力も含めた作る量を常時調整し、そのバランスを保つ必要があることから、単純に電源ごとの使用目的を特定できるものではないということをご理解願います。

●農林水産部 りんご果樹課

(りんご果樹課長)



本県のりんご産業は、生産や加工、流通、資材販売など、様々な業種と密接に結び付いた基幹産業であり、その持続的発展のため、本県果樹の振興策を示した青森県果樹振興計画では、高品質安定生産を基本に、現状のりんご生産量 44 万トンの維持を目標としています。

りんご生産においては、近年、夏場の高温により日焼け果や着色の遅れが発生していることから、県では、高温でも着色しやすい品種の開発や導入を進めているほか、高温時の強い葉摘み作業を控えるなど、対策の生産者への指導に加え、自然災害等に備えるため、農業経営収入保険や果樹共済への加入を呼びかけています。

また、高品質なりんごの安定生産を中心にしながら、高温の影響が大きいりんご早生種の転換品目としての「もも」や、消費者ニーズのある「ぶどう」の「シャインマスカット」の拡大にも取り組んでおり、有望な品目の導入を進め、生産者の所得向上と産地の維持・発展につなげていきます。